

令和 7 年度第 1 回津島市地域公共交通会議 議事録

1 開催日時

令和 7 年 7 月 22 日（火）午後 2 時から午後 3 時 42 分まで

2 開催場所

津島市役所 5 階 第 1 委員会室

3 出席者

別紙「令和 7 年度第 1 回津島市地域公共交通会議出席者名簿」のとおり

4 議事

- (1) ふれあいバス等の利用実績（報告）
- (2) ふれあいバスに関するアンケート調査（報告）
- (3) ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験（情報共有）
- (4) ふれあいバスの見直し案（情報共有）
- (5) その他

5 会議資料

- 資料 1 ふれあいバス等の利用実績について
- 資料 2 公共交通アンケート調査分析業務 調査結果 概要、参考資料 1、参考資料 2
- 資料 3-1 ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験について（津島駅～老松住宅線）
- 資料 3-2 通勤・通学対応実証実験 津島駅～老松住宅 ルート図及び時刻表（案）
- 資料 3-3 ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験について（青塚駅～永和駅線）
- 資料 3-4 通勤・通学対応実証実験 青塚駅～永和駅 ルート図及び時刻表（案）
- 資料 4 ふれあいバスの見直しについて
- 資料 4-1 意見集約結果
- 資料 4-2 A コースルート図（案）と停留所資料
- 資料 4-3 B コースルート図（案）と停留所資料
- 資料 4-4 C コースルート図（案）と停留所資料
- 資料 4-5 D コースルート図（案）と停留所資料
（補足）と書かれた資料

6 あいさつ

【会長】

昨年度、地域公共交通会議でのご意見等も踏まえ、公共交通に関するアンケート調査を実施した。その結果等を踏まえ、現在、ふれあいバスの具体的な見直し案を、各小学校区のコミュニティの代表者等で構成される巡回バス検討委員会にて検討している。

本日は、ふれあいバス等の利用実績や、昨年度実施した公共交通に関するアンケート調査の結果についてご報告させていただくとともに、当該調査等を踏まえて今年度実施予定のふれあいバスの通勤・通学対応実証実験について、また、ふれあいバスの見直し案について情報共有させていただき、それらについて皆様からご意見

を賜りたい。

本日の会議では、議題のほかにも地域公共交通全般に関して活発な意見交換の場にもさせていただきたい。

7 「活発で良い議論ができる会議のために。」

【愛知運輸支局】

《パンフレットをもとに説明》

8 議事要旨

(1) ふれあいバス等の利用実績（報告）

【事務局】

《資料1をもとに説明》

【名古屋タクシー協会】

お出かけタクシーについて、今年の4月から自己負担がこれまでの半額から四分の一に変わっているが、何か理由はあるのか。

【事務局】

物価高騰に対応するための国からの交付金があり、その事業メニューは各市町村がそれぞれの状況に応じて検討できる。そのため今回は、高齢者等のお出かけ支援といった生活者支援をするため、お出かけタクシーの利用者負担を四分の一にした。

【名古屋タクシー協会】

今年の3月以降、お出かけタクシーの利用者数が増加に転じている要因などは分析できているか。

【事務局】

お出かけタクシーは福祉課が担当しているが、福祉課から具体的な理由は聞いていない。4月が増加している理由は、自己負担が四分の一になったことが理由だと思うが、3月で増加した理由はわからない。

【愛知県交通対策課】

その他収入に企業版ふるさと納税の形でかなり収入が増えているが、この内容について教えていただきたい。

【事務局】

企業から、市のどういう事業にでもよいので使っていただきたいという寄附の申し出があったため、市で検討した後、企業と話をし、公共交通の事業に使わせていただく形で寄附をいただいた。

【愛知県バス協会】

車椅子の利用者が、令和元年度まではかなり利用していたが、それ以降すごく減って、令和6年度も年間で5人しか利用していない。減った理由はわかるか。

【事務局】

お出かけタクシーが開始してからは、お出かけタクシーを利用して、ふれあいバスの利用を控えるようになった可能性はある。

(2) ふれあいバスに関するアンケート調査（報告）

【事務局】

《資料 2 もとに説明》

【名古屋タクシー協会】

アンケート結果の詳細な資料をご提供いただけないか。

また、「2. 調査結果まとめ」の(1)について、通勤・通学で巡回バスを利用したい人の自宅を出発する時間帯と帰宅する時間帯についてアンケートを取っているが、前提として、市内企業の従業員と市内高校への通学者は市外の方が半数を超えるという結果だったと思う。これは市外の人でも市内の人でも概ねこのような結果になったのか。

【事務局】

そのクロス集計はしておらず、市内の人と市外の人がそれぞれ何時に出発して何時に帰りたいかは、今回のアンケートでは不明な状況である。

アンケート結果の詳細な資料については、提供可能かどうか一度検討させていただき、可能であれば、また次回お示しさせていただきたい。

【名古屋タクシー協会】

Aコースで7時から8時、18時から19時の時間帯に通勤・通学専用便を運行することの検討が必要と結論付けられているが、そういったクロス集計がない中で、こういった検討が必要という結論が出されたのはどうなのかと思う。

【事務局】

市内企業や市内高校生向けアンケートとは別に、資料 2 参考資料 2 のとおり、市民向けアンケートも行っている。市民向けアンケートでは小学校区別に集計しており、西小学校区にお住まいの方が通勤・通学で巡回バスを利用したいという意見が多かった。その方々が市外に行っているのか、市内で働いているのかまではわからないが、恐らく市外に行っており、津島駅まで行きたいのではないかと考えているので、今回はそういった結論付けをしている。

【名古屋タクシー協会】

ふれあいバスで市外からの来訪者と市内から市外への移動需要に応えるため、今回通勤・通学対応の必要性の検証をして、実証実験を行うことも検討するとなっているが、そうであれば、津島市の政策上必要かどうかの判断は、市全体の移動サービス、公共交通のあり方全体を大きく考えた上で実証実験をするというような方向性でないといけないと感じている。

【事務局】

全体的な公共交通のあり方は今後検討させていただきたい。まずは、将来的なふれあいバスの見直しに向けて実証実験をさせていただき、その結果を踏まえてふれあいバスの見直しに繋げていきたいと今は考えているので、ご理解いただきたい。

【中部大学】

今回のアンケートは、市民向け、市内企業・高校生向けと大きく被験者が2つに分かれ、さらに、お勤めの方と高校生と2つに分かれているので、全体では4つに分かれている。それぞれの特徴をしっかりと捉える必要がある。

これに対する対策についても、先ほど名古屋タクシー協会の野田委員がおっしゃったように、今の交通の仕組みをどう変えていくのか、変えていくことが果たしていい方向にいくのかどうかも含めて詰めていかないといけないと思う。今の駅までの交通、駅からの交通があまりよくないという状況であれば、まさにそれで新しく変えていく。単にふれあいバスの政策だけではなく、市全体の交通政策としてしっかりとやっていくと、1つの効果が表れると思うので、そういう見方が必要だと思う。

利用者の料金負担について、通勤者と通学者では負担を変えた方がいい。なぜかというと、一般的に通勤者は勤務先の企業から通勤手当が出ることが多い。要するに、市が負担して安く提供するよりは、受益者負担で、それぞれの企業にも負担してもらおう形を取ったほうが良いと思う。

(3) ふれあいバスの通勤・通学対応実証実験（情報共有）

【事務局】

《資料3-1～資料3-4をもとに説明》

【愛知県交通運輸産業労働組合協議会】

時間設定にあたって、同時間帯で試走はしているか。

【事務局】

名鉄バス株式会社に時間の確認をしており、試走もしていただいている。

【愛知県交通運輸産業労働組合協議会】

津島駅～老松住宅線の時刻が若干タイトなように思われるので、もう一度検討していただきたい。青塚駅～永和線も約2時間走行するが、トイレ休憩できる場所が途中で用意されているのかも心配である。この辺を事業者と話し合っていただきたい。

【中部大学】

津島駅～老松住宅線について、津島高校というキーワードが出たが、今年から津島高校附属中学校ができたので、附属中学校の生徒がどのように通学しているのかが気になっている。

最近では、親の送迎が多くて道が混んでしまい大変だという事例がよくある。もしこのような事例があるなら、地域課題の解決という面でもいい話だと思う。

先ほど通勤手当について話したが、通勤利用の場合、合理的経路や通勤災害の問題があり、勤務先への手続きをせず利用することにならないか心配である。勤務先の企業にきちんと対応していただけるのが一番いいと思う。

【愛知県バス協会】

名鉄バスの路線が東西に走っている。青塚駅～永和駅線と並行はしてないが、ひょっとしたらふれあいバスに乗り換えるということも考えられる。現在の名鉄バス路線への影響等は名鉄バスと話しているのか。

【事務局】

名鉄バスとは、実証実験を行う前に、現在の2つの路線バスとの関係等についても調整や相談をさせていただいている。

(4) ふれあいバスの見直し案（情報共有）

【事務局】

《資料4～資料4-5、補足資料をもとに説明》

【名古屋タクシー協会】

今回ご説明をいただいた見直し案を巡回バス検討委員会で検討して、近いうち地域公共交通会議に諮るという説明があったが、巡回バス検討委員会は、この会議のどのような位置付けになっているのか。部会なのか。

【事務局】

そういったものではなく、幅広く、特に地域の方からのご意見をお伺いするために設置したものである。

【名古屋タクシー協会】

そうすると、ルートやダイヤの見直しについても、巡回バス検討会で市民の意見を聞きながら検討しているということか。

【事務局】

そのとおりである。

【名古屋タクシー協会】

巡回バス検討委員会はこういったメンバーで構成されているか。

【事務局】

各小学校区にコミュニティ推進協議会という各地域の取りまとめのような会があり、そちらから代表の方を1名ずつと、老人クラブの代表や障がい者の団体の方にご参加いただいている。

【名古屋タクシー協会】

スケジュールの中で、見直し案の取りまとめが来年2月との話があった。先ほど話があった通勤・通学対応実証実験の結果をいつ頃までに取りまとめるのかわからないが、このスケジュールで、実証実験の結果がきちんと取りまとめされるのか心配である。

【事務局】

おっしゃる通り、スケジュールはタイトになっている。実証実験の関係もあり、もしかしたら令和8年3月の地域公共交通会議は少し前後する可能性はある。当然、実証実験の結果を踏まえた上で見直したいと考えている。

【名古屋タクシー協会】

車両の見直しについて、現行の2台から4台に拡充するということだが、新たに新車を導入する計画があるということか。

【事務局】

現時点ではそう考えている。

【名古屋タクシー協会】

車両は市の所有にするのか。

【事務局】

現時点では、市の所有にする方向で考えている。

【中部大学】

かなり積極的な提案で、利用者から見ると嬉しいことだが、実際、運行する側としては、運転手確保の問題等もあるので、しっかり検討しなくてはいけない。

今回の見直しでまた新たに市の持ち出しになりそうであり、議題1で説明があった、市の運行負担額や乗客1人あたりの市負担額といった一種の成績は悪くなると思うが、どれぐらいであれば妥当かというのを計上していただけるとよい。今後、市の財政と調整したり、市議会ではいろんな方の意見を聞いたりしてやっていくので、そういったことも大事な論点だと思う。

(5) その他

【事務局】

第2回地域公共交通会議を令和7年9月18日（木）午前10時30分より開催する。また同日午前9時半より運賃料金協議会を開催する予定である。後日改めてお知らせするが、ご出席をお願いしたい。